

学校・保育所のあり方保護者説明会 意見・質疑応答の概要

日時：令和6年10月17日（木）18:30～20:00

場所：沢内中学校 2F 多目的室

参加者：11名

出席者：教育長、学務課長、高橋主任、高橋主査

（前郷 男性）

保育所のことで質問です。送迎のことで川舟保育所の方は、送って通り過ぎるから問題ないということでしたけれども、三園統合する場合に、例えば全員が全員通り過ぎていくわけでもないですよ。そこはどうなるのか。

（学務課長）

そういった送迎の手立てというのは考えていく方向でいますが、ただ沢内地区については、保育所、小中学校で施設一体化した形で進められればということで、この形で行っていいと方向性がまとまるとすれば、来年度は位置の話になってきます。その位置によっても送迎の方策が変わってくる場所ですけれども、具体的な位置を検討する段階で送迎をどうするかというのを併せて検討していければと思っていますところ。

現時点で細かくこうするかというのは示せる段階ではありませんが、いずれ送迎の対策はしていかなければならないと考えているところでありました。そういったところも保護者の皆さんからご意見をいただきながら考えていきたいと思っています。

（長瀬野 女性）

職員数によってできるサービスが増えるかもしれないというようなお話があったと思うんですけど、この職員数のところで、今いる先生方がみんな引き続きお勤めしていただけるような感じなのか、職員数を検討したという説明がありましたが、検討した結果どうだったのか教えてください。

（学務課長）

想定される延長保育やゼロ歳児保育のシミュレーションというか、そういうのを内部でやったところ。当然年齢で退職される方もいらっしゃいますし、そういった部分も備えて当てはめていけば、延長保育とかゼロ歳児保育もカバーできるのではないかとシミュレーションを、まずやらせていただいているところで、さらに様々な他の保育サービスも出てくると思いますが、現時点での職員数をもって、集まったことによって保育サービスを充実できるのかなと思っていますところ。

詳細についてはまだ言える段階ではないですけれども、職員が集まったことによって保育サービスでできることも膨らませてと言ったらあれですけれども、そうしていきたいと考えているところ。

（長瀬野 女性）

お勤めになっている先生方、特に会計年度の先生方とか引き続き勤められるのだろうかとか不安をお持ちの方もいらっしゃるというふうに聞いたので、先生方が心配なく勤め続けていただけるようなことで考えていただけたらと思います。

(学務課長)

会計年度任用職員の方々ともこの間、一人ひとりと面談させていただく機会もあって、そういったお話も聞いているところですし、あと来月初めになると思いますけれども、保育所の職員を対象とした、このような説明の場を設けたいと考えているところでした。

(長瀬野 女性)

小中一貫のところ、先ほど町やるとしたら併設型というお話だったと思うんですけども、それはどういうふうな検討をして、それがふさわしいとなったのかということと、一体型または併設する建物にと書いてありますが、一体にすると併設にするとか、そういうところの検討はどういう状況なのか教えてください。

(教育長)

基本的には一体にします。同じ建物の中に小学校と中学校を、同じ屋根の下に入れたいと思っています。運営的に分けなければいけないのは、校舎を建てるうえで小学生の基準とか中学校の基準がありますので、そこは分けたいと思っていて、他の学校見させていただきながら、共通するのはどういう教室だとか、小学校中学校に必要な教室はこうだとか、図書室は一般の人にも開放できるような状況で、そこをコミュニティの場にしたりとか、そういうところで新築を考えているところです。

建てることで決定となれば、ご意見をいただきながら納得するところで建設の方を考えていきたいと思っています。お金についても無尽蔵ではないので、そこについては十分、補助とか得ながらいい形に作っていきたいと思っています。

あと学びとして盛んに言われているのは、小学校から中学校のギャップだとか、情報交換ということが非常に課題となっておりますので、職員数を一体化してしまって、その中で先生方の交流ができるような体制とか、英語の教育であれば中学校の先生が小学校に行って、また体育のスポーツもそうですし、小学校の先生が逆に中学校に行って、そういう交流もできるようにすることも大きなメリットですし、それは子供たち同士でも200人交流ということで教える、教わる関係がすごく有効に機能をすることが、大きい男の子、女の子にとっては自己意欲が高まっています。今まで無口だった中学生が盛んに喋るようになったり、そういう効果も期待できるということがありまして、狙っていきたいと思っています。

まず、これについては皆さん方のご意見をいただきながら検討してまいります。

(長瀬野 女性)

校長先生1人ということですか。

(教育長)

そうですね、校長先生を1人にして、小学校、中学校見ていただきます。副校長はそれぞれいます。これについては先ほど説明があったように、他の先生に代替することができます。

ので、複式とかになった場合にそちらの方に配置することもできるだろうし、町としても複式になった場合を検討していかなければならないと思っていますところでは。

(長瀬野 女性)

それを聞いたかったのは、もしかして子どものニーズが縮小していったときに、併設二つ、校舎を小学校、中学校と整備した場合に、また子どもが減って教育的にどうなんだろうかという状況にまたなりはしないかと心配したということが一つと、先ほど教育長が触れたんですけど、議会の方で視察に行かせていただきました大熊町も、そういうようなゼロから100歳までの教育をこの施設ですというようにやっています。本当に保育所の子どもたちと中学生の年齢の子どもたちの交流も日常的にありますし、そういう交流を生み出すにはどうしたらいいんだろうという施設の考え方も本当に大事だと思いますし、もっと具体化したものを出してもらえれば、私達も意見が出しやすいと思います。

もう一つ、教育長のさきほどの説明の中で、一人ひとりを大事にするようなことをすごく重要視された話をしてくださったのが嬉しくて、そういう教育が実現していくといいと思っています。保護者としてなんですけれども、私、西和賀で子どもを育てたいと思って帰ってきました。小規模ならではのとか、先ほどの紹介にあったような自然に触れたり、小規模ならではの経験がいろいろできたりっていうところ本当に感謝しているところでは。

ただ、一人ひとりを大事にした教育を考えたときには、もうちょっと工夫できるということも感じていて、もちろん35人の中の1人と、十人足らずのところの1人では先生との密着度が全然違うし、細かいところまで気づいてもらえるということはあるんですが、授業のやり方を見ていると、都会のやり方とほぼ変わらないんじゃないかというふうにも思っています。例えば沢内小学校の場合ですけれども、1人1冊、漢字ドリルも計算ドリルも終わらなくちゃいけない、それをみんな同じページをやるというようなやり方を教えているんですよ。そういうやり方をしていると、子どもたち同士でも、この子はできるし、この子はできないというような気持ちが生まれてくると思うんです。その人数で、今10人ぐらいの学級でそれをやっている場合じゃないと私は思っています。なので、教育長がおっしゃっている一人ひとり大事にする、博士ちゃんみたいにその子の得意なところが生き生きと光る。テレビに出るほど素晴らしくなくていいですよ。一人ひとりの得意なところが皆に認められていけるみたいな、それは施設とかは関係ないと思うので、そういうところにいけるといいなと思っています。

(教育長)

そのとおりで、子どもたちが学校に行きたいなと思ってもらえる学校をつくっていかねばと思いますし、先生方にも自分の子どもをこの学校に入れたいなという思い抱けるような学校をコンセプトにしないでいけななと感じているところですので、その話は学校と相談しながら進めていきたいと考えているところでは。

あと、支援員さんにもすごく協力していただいているところで、小学校では3人、中学校では2人と。北上市あたりでは中学校に1人か2人しか入ってこないです。そこと比較するつもりはないですが、やっぱりいい教育ができるように、小中、高校や保育も連携しながら

作っていったらとと思っているところです。実際はこうだろうということはお話ししながら、先生とも協力しながらやっていきたいと思います。

(前郷 女性)

2点思ったことがありますて、1点目は今日のこの会なんですけれども、前回の地域説明会と、町長とお話する会とこの会のどれをとっても、思っていたより人が来てないと感じているんじゃないかなと思ひまして、今日参加するかどうかを3、4人と話しまして、行かないという人の意見を聞いたところ、既に資料があつて、そこに何年に大体どこで何ができるかも書いてあつて、それ以上のことがなさそうだと。あとは忙しかつたりとか、誰も来なさそうだとか。多分今後さらに建替えられることはないでしょうから、終わった後に私達の意見が反映されなかつたと言われるよりは、文句があるならその場で言った方がいいと思ひますので、何かもっと気楽に言い合えるのがいいのかな。保育所の先生にチラシはもらひましたけれども、行くかどうかという話が無かつたので、気になっている人はもっといたと思ひます。

(学務課長)

まず一つ目、私達も思つたより少ないとは感じたところであります。ただご指摘いただいたとおり、町の会議の持ち方、そこを気楽に話し合える場作りというのは、検討していかなければ課題だと思つたところです。あとは出席できなかつた方もいますので、この後保護者の方にアンケート調査も考えています。そういったところで意見集約もしていければと思つているところでした。

(前郷 女性)

次に、5のスケジュール案で、3年次、令和8年に統合体制開始、前の議事録を読み返したところ、ここは建物ができる前に、どこか一つの保育所に集まって、先生と子どもが一つになって、体制を始めてみようという意味だと説明がありましたが、それは必要でしょうか。2回引っ越しをする子どもが出てくると思うんですけれども、新しい環境で慣れなくて昼寝しなかつたけれども、やつと寝るようになったのが、次の年に引っ越すわけですね。それは先進事例とか保育所の意見を聞いたうえで必要な導入なのか、うちの子どもは最後の1年どこか統合場所にはいかないけれども、そのステップは年長児に必要なのでしょうか。

(学務課長)

令和8年度に1ヶ所に、施設はできていないところなんですけれども、一つの体制を取るところですが、やはり保育サービスの充実を図るためにも、職員の集約は必要だと感じているところです。

今の保育所の職員数も、正直保育士の成り手が少なくて、人材確保にも苦慮しているところです。保育園の運営上のところも考えれば、現場の保育士の方々は、できれば早くに職員数がある程度まとめた形で運営して欲しいというのが正直なところだと思つていました。

ですので、施設の方はその次になってしまいますけれども、統合した体制を先に執らせていただいて、保育所が円滑に運営できるような体制を執っていきたいと考えているところでした。

(太田 女性)

小学校の一体化の話ですが、9年校ということになるのでしょうか。

(教育長)

9年校というのは義務教育学校で、例えば1年生から4年生を一区切りにして、5、6、中1を一区切り、2、3で一区切りというのが多いです。ですがそうはしない考えです。なぜかと言うと、他から来た先生方が義務教育学校だと戸惑ってしまう可能性があるんです。

今まで中間のところで教えてきた先生に経験が無いとなると、子どもたちが慣れるまで時間がかかると。それは紫波町も同じで、小学校は小学校、中学校は中学校ということにしたかと思っています。

(太田 女性)

そうなったときに、例えば小学校と中学校のジャージが違いますよね。そうなったときに中学校3年生まで一定のジャージとか、制服とかがどうなるんだろうっていう疑問があります。

(教育長)

それは今後検討させていただきますが、統合と決まればそれらは決めていかなければなりませんし、校歌は小学校、中学校残してもいいかなと思ったり、愛唱歌をつくったりとか、そういう形もあるし、校章はそのままとか、そこはこれから皆さんと一緒に作っていく学校なので、皆さんと相談する機会が設けられればいいと思っています。

(太田 女性)

鞆とかランドセルも同じですよ。

(教育長)

そうですね、皆さんの意見を聞きたいと思います。小学校から中学校3年まで同じ鞆が使えるのであればそれでいいと思う部分もありますし、持ち運びがちゃんとできてフィットさえすればいいと思ったりするところもありますが、そのあたりも一体化をするために、聞いていきたいと思っています。

(両沢 男性)

複式になった場合に、単純に先生の人数が減るという認識なんですけれども、一体化によって先生方の人数が増えるメリットとか、そういうのもあるんですか。

(教育長)

学級数によって先生方の数は決まっています。岩手県は岩手県のシステムになっています。当然一つ少なくなれば1人減ると思います。

その分校長が1人なので、そこで減ったところを補充していけたらいいかなというように、一時的な場しのぎになってしまいますが、それから法によって数年間加配するという措

置も情報を得ているところで、何とか先生方の確保も努めたいと思っています。支援員さんについてもお願いしながら、一緒に作っていきたいですし、あとは地域の方にも入ってもらって教えてもらうのもありと思っています。

(両沢 男性)

事務員も1人減ということですね。

(教育長)

紫波の場合は減っていません。小学校の事務、中学校の事務がいます。

(両沢 男性)

事務は人数ではないんですか。

(教育長)

事務員は教諭の人数に入っていないので、そこは減らないと思っています。

(両沢 男性)

これから例えば湯田、沢内それぞれ校舎が一つずつになった場合に、先生方の数もすごい減りそうなイメージしかないんですけれども。

(教育長)

小学校は小学校、中学校は中学校で確保されますので、学級数が減った分、小学校の先生の数が増えるかもしれませんが、小学校と中学校が別れている場合は、それぞれの基準で先生がいますので、激減することはないということでこの方法を考えています。

小学校は小学校、中学校は中学校で統合すると、本当1校分の先生歯科いなくなるので、ここから半分の先生がいなくなります。ところがこういうふうにしておくと、そうはならないと思ったところがあります。

(学務課長)

先ほど小学校の、例えば2学年で16人以下になると複式になるというところなんですけれども、さらに細かい基準もあって、例えば16人以下であっても14人以上で加配と、先生を配置するというところもあります。また統合して間もない期間は加配が付くという様々な条件もありますので、極端に減ったりとかはないと思っていますけれども、ただ先生方が減ったところの対応は教育委員会としても考えなきゃいけないと思っていますし、例えば小学校で英語が始まっていますけれども、中学校の英語の先生が小学校の方にもフォローに行くとか、そういった部分は小中連携で考えられるメリットになるのかなと思っています。

(長瀬野 女性)

湯田の方は連携開始のところは計画にありますけど、小中一体化についてはどう考えていますか。

(学務課長)

湯田小学校は、保育園が湯田小学校に隣接して建てられるという形で、小学校と中学校は、離れてはいますが連携した形での小中一貫校というふうになります。先々になりますけれども、施設については小中一体型ということで考えていく流れになりますけれども、今の

ところは離れてはいるものの、連携型を執る学校づくりを進めていきたいというところであり  
ます。

紫波町も同じパターンがあり、施設は離れているけれども小中一体型を執るというスタイル  
で、離れているけれどもというのが湯田地区で、一体型でスタートするのが沢内地区とい  
う考えであります。

(猿橋 男性)

既存の校舎とか園舎は解体する予定なのかということと、例えばこの辺に作って中学校の  
体育館とかを学校で使うとか、そういうことは想定されているかどうか。

(学務課長)

校舎の利用については今後の課題となると思いますし、第二体育館は避難所指定にもなっ  
ていますし、利用できる施設は引き続き利用していくという形になろうかと思います。跡地  
利用については現段階で決まっているものではありませんので、皆さんからご意見を聞きな  
がら方向性を決めていくしかないと思っています。

施設としては沢内中学校はかなり老朽化が進んでいるので、再利用は難しいと思いますけ  
れども、ご意見を聞きながら活用方法があれば話し合っていきたいと思います。

(猿橋 男性)

旧小学校も使われずにそのままだと思いますが、そういったところの課題も踏まえて進め  
てもらえれば。

(学務課長)

旧小学校については劣化が著しく、解体の方向で進めたいと考えておりますけれども、解  
体するにしても億単位のお金がかかります。限られた財源の中で、学校施設だけではなく  
て、公共施設で劣化して使えない施設はたくさんあって、優先順位をつけて解体していく  
という流れでしかできないと思っています。